

人間科学研究科紀要第2号発刊にあたって

人間科学研究科長 久 留 一 郎

平成16年4月、鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科心理臨床学専攻修士課程（一研究科一専攻）が開学し、3年が経過いたしました（定員10名・昼間制・男女共学）。現在、1年生9名、2年生7名が在籍しております。平成18年度より、財団法人日本臨床心理士資格認定協会臨床心理士養成指定大学院（第1種）に認可され（2年遡及）、臨床心理士養成校として私立大学大学院では南九州初の喜びも得ることができました。

心理臨床学専攻は11名の専任教員と8名の兼任教員からなり、「こころ」の分野と「からだ」の分野を統合した「人間科学」を学べるカリキュラムになっています。池田久剛先生が転出され、その後任として石井専任講師が赴任し、家族療法を担当することになりました。さらにカリキュラムに厚みが増しました。

「こころ」の分野では、「臨床心理学特論」「臨床心理面接特論Ⅰ・Ⅱ」「発達心理学特論」「障害児（者）心理学特論」「家族心理学特論」「教育心理学特論」「投影法特論」「臨床心理査定演習」「心理療法特論」「被害者臨床援助特論」「集団力学特論」「臨床心理学研究法特論」「心理統計法特論」「哲学的人間学特論」「文化交渉史特論」などで構成されています。

「からだ」の分野では、「神経学特論Ⅰ・Ⅱ」「小児医学特論」「精神医学特論」「精神薬理学特論」「健康栄養学特論」「HIVカウンセリング特論」「ターミナル・カウンセリング特論」「臨床動作法特論」などで構成されています。

課題研究として、「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」「健康科学基礎実習」「健康科学実習」があり、大学院心理臨床相談室および学内実験室で行う学内実習、学外では、精神科・心療内科等の心理臨床関連施設、情緒障害児短期治療施設、社会福祉施設などで実習を行っています。

臨床心理士有資格者の専任教員の専門性から、被害者支援、発達支援、スクールカウンセリング、家族支援等に対応できる臨床心理士の養成を目指しているところです。大学院入学一年目に心理臨床学の基礎を培い、二年目は実習と修士論文完成を目指し、臨床と研究の両立に励んでおります。

学内の心理臨床相談室では相談活動、陪席等を行い、その都度、スーパーヴァイズを受け、記録を作成してきました。週に一日は学外実習と、かなりハードな実習の中で研究にも取り組み、1月31日には7名全員が修士論文を提出することができました。また、先生方の御力添えをいただき、精神科のクリニックや福祉施設など、大学院修了後の進路につきましても多くの内定をいただいております。

今、ようやく「卵から雛が孵る」といったところでしょうか。「啐啄同時」の関係をどうかよろしく願いいたします。教員、院生、スタッフ一同、弛むことなく、その専門性を高め、人間としても成熟していきたいと心から願っております。

この3月に、本学大学院は二期生を旅立たせることになります。非常勤講師、客員相談員、学外実習の先生方、お支えいただいたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

（平成19年3月31日、新たな一年を迎える前日に）